

資料編

[参考資料 1]

C P I 因子の説明

高点特徴	因 子	低点特徴
根気強く、計画性があり、積極的で、自立性に富み、指導力がある。	支配性	控えめで抑制がち、無口、平凡。思考・行動が鈍く優柔不断、自信欠如。
野心的・能動的、洞察性に富み、多才。説得力あり、優越、利己的。	社会的成就能力	紋切型・慣習的、温和・実直・内気・活気なし。視野・関心が狭く、新しい社会場面に適応困難。
外向的、冒険を好む。判断が鋭く、独創的でよどみがない。	社交性	受動的、被暗示的で、態度不明確。控えめ・服従的、不器用。
頭がよく、自発性・想像性に富み、表現豊かで話し好き。活気あり、物事に熱中する。	社会的安定性	節度あり慎重、実直、忍耐強い。思考・判断に融通性なく、不決断。独創性に欠ける。
理知的、機知に富み、説得力あり、自信もつ。自己中心的・攻撃的、人に強要する。	自己満足感	保守的・慣習的、安易で抑制的。自責・自己卑下、総じて受動的に行動する。
精力的、冒険的、野心的。多才で抜け目なく、生産性が高い。仕事と努力に価値を認める。	幸福感	臆病・用心深く、慣習的で野心がない。防衛的、弁解が多い。総じて抑制的。
責任感強く、誠実で信頼される。倫理・道徳的に敏感、威厳あり。自発的・進歩的・計画的・徹底的。	責任感	未熟、気むずかしく、個人的偏見をもち、他人を信じない。気まぐれ・衝動的で怠惰、臆病。
良心的で責任感強く、献身的、順応性あり。親切・正直・勤勉・堅実。	社会的成熟性	陰険・欺瞞的、極端に顕示的な行動をとる。独断・易怒・頑固・強要的・反抗的。信望なし。
自制的・思索的・慎重・忍耐強い。活気はない。正直・良心的で仕事への期待は自他にきびしい。	自己統制力	衝動的・即行的、短期で興奮しやすく、独断的・攻撃的。自己中心、個人的快樂や私利欲求の重要性を過度に強調する。
自由で冒険的、敏速、寛容。知的	寛容性	偏狭、疑い深く、ひとの意見を

に高く、思考明晰、工夫に富む。話は流暢、興味の幅が広い。		信じない。冷淡で、ひどく批判的。受動的、引っ込みがち。
協調的・外交的・社交的・援助的、他人に好印象を与えることに気を遣う。勤勉、根気強い。	自己顕示性	自己中心で、他人への思いやりなし。抑制的、注意深く、用心深く、怒りっぽい。
良識あり、正確な判断をする。節度あり、堅実、忍耐強く、信望がある。	社会的常識性	落ち着きなく、無秩序、混乱しやすい。他人には欺瞞的、陰険。悩みや葛藤をもっている。
有能、協調的・能率的、責任感あり、堅実、勤勉。知的活動や成就に価値を認める。	順応的な成就欲求	粗野、強情、独断的、冷淡。臆病、不安定。
自主性、独立心強く、すぐれた知的能力と判断力をもっている。社会的に成熟し、支配性大、展望がきく。	自立的な成就欲求	自己洞察に欠け、権威に服従的。不安・不満をもちやすく警戒的、抑制的。
能力があり、理知的・思考明晰、工夫に富む。知的な事柄を重んずる。	知的能力	思考が紋切型、慣習的。野心がなく、安易、浅薄。自己管理と自己訓練に欠ける。
感受性に富み、観察が鋭い。拘束されることに反発する。自発的で工夫に富む。話し好きで話が流暢。	共感性	テンポが遅く、慎重、用心深い。まじめ、穏やか、気取らず、保守的、慣習的。
ユーモラス・皮肉。理想主義的・利己主義的・形式にとらわれない。自信家で大胆。個人的な楽しみや気晴らしに価値をおく。	融通性	思考は紋切型でペダンティック、権威や因習を尊重し、融通がきかない。礼儀正しく、慎重、勤勉、気が小さい。
他人を尊敬し、受容的・同情的。節度あり、誠実、忍耐強く、固執的。鑑賞眼がある。	女性的傾向	外向、強情、野心あり、男らしい。強健で能動的、直接的に考え、行動する。つきあいがよく、ご都合主義のところがある。

消費者金融利用者
[デプスインタビュー内容の要約]

ここでは、インタビュー調査の被験者による発言要旨とそのプロフィールが本論文の「参考資料 2」
として、82 ページに渡り記載されています。しかしながら、本資料のウェブサイト上での公表に当たり、
被験者のプライバシーを配慮して、その掲載を割愛させていただきます。

参考文献

- FCF シンポジウム(2007年1月)「フィナンシャルカウセリング研究会 (FCF) 開催報告」『月刊クレジットエイジ』, JCFA, January 2007, Vol. 325
- JCFA カウセリング実務委員会 (1999)「ユニバーサルバンクシステム化に見る『第2次欧州カウセリング金融事情』視察報告」, 日本消費者金融協会
- JCFA カウセリング実務委員会 (2000)「『米国カウセリング金融事情』視察報告書」, 日本消費者金融協会
- JCFA カウセリング実務委員会 (2001)「『第3回米国カウセリング金融事情』視察報告書」, 日本消費者金融協会
- JCFA カウセリング実務委員会 (2003)「米国カウセリング金融事情視察&アイオワ州立大学金銭管理カウンセラー養成研修報告書」, 日本消費者金融協会
- Staten, E. Michael, G. Elliehausen and E. C. Lundquist, The Impact of Credit Counseling on Subsequent Borrower Credit Usage and Payment Behavior, Monograph #36, Credit Research Center, Georgetown University, March 2002.
- 有田宏美(2006年9月)「多重債務は『心の問題』。『金利の引き下げ』は根本的な解決にならない」『月刊クレジットエイジ』, JCFA, September 2006, Vol. 321
- 上田晶平、片山康(1995年3月)「米国クレジット・カード事情その後」『調査月報』, ニッセイ基礎研究所
- 内田治(2006)「コレスポンデンス分析による利用者調査の解析と考察」『消費者金融白書(2006年度版)』JCFA及びNIC会
- 江夏健一, 坂野友昭[監訳](2005)「21世紀の消費者信用市場」英国貿易産業省, 東洋経済新報社
- 大槻奈菜(2004年11月9日)「銀行が欲しがる消費者金融の魔力」『週刊エコノミスト』毎日新聞社, 2004, Vol. 82, No. 62
- 晝間文彦(2001)「消費者金融の経済意義」, 早稲田大学消費者金融サービス研究所ワーキングペーパー, IRCFS01-001
- 坂野友昭, 藤原七重(2002)「消費者信用市場における上限金利規制の影響 -米国における先行研究のサーベイ-」, 早稲田大学消費者金融サービス研究所ワーキングペーパー, IRCFS02-005

- 堂下浩（2003年10月13日）「米シティグループが日本の消費者金融市場で成功した理由」『エコノミスト（臨時増刊）』毎日新聞社，2003，Vol. 81，No. 49
- 堂下浩（2005）『消費者金融市場の研究』，文眞堂
- 堂下浩、内田治、照井芳裕（2006）「消費者金融の利用に関する調査報告書」
- 日本消費者金融連絡会（2005）『TAPALS 白書』

以上